

筑波大学山岳科学センター
機能強化（調査研究）プロジェクト申請書

申請日 令和3年6月7日

筑波大学山岳科学センター長 殿

代表者
所 属：生命環境系
職 名：准教授
氏 名：興梶克久
電話番号：
e-mail：

下記のとおり調査研究費を申請します。

記

申請区分	どちらかをチェックしてください。			
	<input type="checkbox"/> 重点研究 <input checked="" type="checkbox"/> 個別調査研究			
課題名	自伐型林業への新規参入の現状と課題			
参画者 *4名以上の場合は備考欄に記載	1	氏名:興梶克久	所属:生命環境系	職名:准教授
	2	氏名:	所属:	職名:
	3	氏名:	所属:	職名:
山岳科学センターの機能強化への貢献	<p>本プロジェクトは、山活用部門における「地域社会、山間地域の持続的発展のあり方」のうち、中山間地域における自伐型林業への新規参入の現状と課題を分析する。自伐型林業とは、森林を所有しない、もしくは所有していてもこれまで管理を行っていなかった地域住民や都市部からの移住者が家族や仲間とともに多様な兼業との組み合わせにより自営林業に取り組むものである。</p> <p>従来所有森林において家族経営で育林・素材生産を行ってきた自伐林業（自伐林家）が培ってきた小規模分散型長伐期施業技術を継承している点に特徴があり、中山間地域での「半農半X」における半Xに親和性が高く、新たな「多業的暮らし」の形態として近年注目を浴びている。自伐型林業の動きは全国に広がりつつあるが、これを専門とする森林科学分野の専門家は全国的に見ても非常に少なく、本プロジェクトにより山岳科学センターの山活用部門における新たな研究領域の創出の足掛かりを得られ、ひいては山岳科学センターの機能強化に結び付くと考える。</p>			
研究・事業の目的	<p>本プロジェクトの目的は、これまで申請者が体系化してきた林家経営研究の分析視点をふまえ、第1に、生産性（森林施業技術・生産体系）、持続性（経営組織の持続性、経営の健全性、経営の計画性・戦略性、複合経営化・兼業構造等）、社会性（環境配慮型施業技術の形成・実践、土地所有関係、地域森林管理への貢献等）の3つの観点から、先行研究や自伐型林業推進協会や東北・広域森林マネジメント機構の取り組みを研究対象として、自伐型林業の展開過程と課題、展望を明らかにすることである。</p> <p>第2に、自伐型林業への新規参入を考える人々に対する参入指針の作成に資するため、新規参入の諸手続（技術習得、移住に伴う社会関係の形成、法制度的手続き等）の問題点について、北関東・東北地域をフィールドとして実証的に検討する。当該地域をフィールドとするのは、本プロジェクトに参加予定の山岳学位プログラム2年・高橋渉氏自身が将来、当該地域で自伐型林業に新規参入することを計画していることによる。このため、自身の体験の中で自伐型林業への新規参入の障壁問題を検討する参与観察方式を採用する。</p>			

<p>研究・事業の内容と計画</p>	<p>本プロジェクトの調査研究内容は、以下の2ステップを想定して遂行する。</p> <p>(1) 自伐型林業推進協会や東北・広域森林マネジメント機構が関与する全国の自伐型林業の取り組みについて、先行研究および同協会の公表資料等をもとに自伐型林業の存在形態(類型)を整理するとともに、類型区分ごとに特徴のある自伐型林業の取り組み事例を選定し、前述の3視点(生産性、持続性、社会性)から自伐型林業の展開過程と課題、展望を明らかにする。分析対象事例(地域)は、移住を伴うか、定年帰農か、森林の所有か借り受けか、個別経営か共同経営か、などの観点を基準として選定する。</p> <p>(2) 上記を踏まえ、北関東・東北地域で自伐型林業に新規参入するケースを想定し、本プロジェクト参加予定の山岳学位プログラム学生には自伐型林業推進協会や東北森林マネジメント機構が実施する自伐型林業新規参入のための各種研修に実際に参加し、参与観察を行う。そこで得られた知見と上記(1)の検討結果をもとに、自伐型林業への新規参入の場合と雇用林業労働者の新規就業時の育成研修制度(「緑の雇用」事業)との比較検討を含め、新規参入の諸手続(技術習得、移住に伴う社会関係の形成、法制度的手続き等)の問題点を明らかにする。</p>
<p>期待される成果</p>	<p>(1) これまで比較的研究蓄積の少ない自伐型林業への新規参入にかかる社会科学的研究を、森林計画学や森林育成学等の隣接分野と連携しつつ山岳科学センターで新たに行うことにより、同センターの機能強化に貢献することが期待される。</p> <p>(2) 山岳科学学位プログラム大学院生による参与観察により本プロジェクトの一部を進めることは、当該学生の問題解決能力の醸成にも好影響を与え、山岳科学学位プログラムにおける教育の一手法として今後活かされることが期待される。</p>
<p>関連課題での大型研究費申請の可能性の有無</p>	<p>有 <input checked="" type="radio"/> (有の場合は概要を記載) 重点課題は大型予算申請へのプロセスを記入。</p>
<p>研究経費の内訳</p>	<p>①関連図書購入 10,000円</p> <p>②現地聞き取り調査および研修参加旅費(レンタカー代及び関連経費を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栃木県矢板市 25,000円 教員1名・学生1名×1泊2日 ・岩手県九戸村 80,000円 教員1名・学生1名×2泊3日 ・宮城県南三陸町 80,000円 教員1名・学生1名×2泊3日 ・青森県階上町 80,000円 教員1名・学生1名×2泊3日 ・茨城県常陸大宮市 25,000円 教員1名・学生1名×1泊2日 <p>合計 300,000円</p>
<p>外部資金獲得状況(過去5年間) *代表者のみ不採択になった研究費申請も記載する(科研費以外も含む)。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域森林の社会的管理への参画と林業技能習熟過程の多様化に関する調査研究(研究代表), 2020(不採択), 公益社団法人国土緑化推進機構/令和2年度「緑と水の森林ファンド」公募事業助成 2. 森林の生物多様性と人の認識との相違に関する研究(研究分担), 2021~24(不採択), 科学研究費助成事業/基盤研究(B)(一般) 3. 貿易自由化政策が日韓の森林・林業セクターに与える影響の実証説明(研究分担), 2020~23(不採択), 科学研究費助成事業/挑戦的研究(開拓) 4. 水源涵養機能を最重要視した水源林経営の再編過程: 全国の水道事業者を対象に(研究代表), 2019~20(採択), 公益財団法人阪本奨学会/2019年度公益財団法人阪本奨学会研究助成 5. 青少年教育施設等と連携した森林ESD推進体制構築に向けた調査(研究代表), 2019(採択), 全国社会教育職員養成研究連絡協議会/青少年教育施設等と連携した森林ESD推進体制構築に向けた調査に対する研究助成 6. 森林所有の変革と新たな森林管理の可能性に関する研究(研究分担), 2019~22(不採択), 科学研究費助成事業/基盤研究(B)(一般) 7. 林業技能継承の活路を拓く: 暗黙知の形式知化と技能者育成制度の整備(研究分担), 2018~20(不採択), 三井物産環境基金2017年度研究助成 8. 職業能力の「見える化」に対応した林業雇用管理のあり方に関する研究(研

	<p>究代表), 2016~18 (採択), 科学研究費助成事業/基盤研究 (C)</p> <p>9. 2015年センサス・マイクロデータを用いた構造分析による林業成長産業化の検討 (研究分担), 2017~19 (採択), 科学研究費助成事業/基盤研究 (C)</p> <p>10. 「自伐型林業」方式による中山間地域の経済循環と環境保全モデルの構築 (研究分担), 2015~17 (採択), 科学研究費助成事業/基盤研究(B)</p> <p>11. 東アジアにおける木材自給率向上政策の展開と山村への社会経済的影響 (研究分担), 2013~16 (採択), 科学研究費助成事業/基盤研究(B)</p>
<p>主な研究業績 (過去5年間) *代表者10件以内、 参画者5件以内</p>	<p>(代表者)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 殷静冬・<u>興梶克久</u> (2020) 「木の駅プロジェクトの現状と課題ー地域通貨の視点からー」『木材情報』No.351 : pp.14-18 2. Yoshida Mika and <u>Kohroki Katsuhisa</u> (2019) Forestry machine sharing system in self-employed forestry. Journal of Forest Research 24(2): pp.71-76 3. Akie KAWASAKI and <u>Kohroki Katsuhisa</u> (2019) Mechanization strategy of small-scale contractors in Japan. EXCEEDING THE VISION: FOREST MECHANISATION OF THE FUTURE Proceedings of the 52nd International Symposium on Forestry Mechanization, pp.417-421 4. <u>興梶克久</u> (2019) 「現代林業労働問題と『緑の雇用』」『山林』No.1619 : pp.68-76 5. <u>興梶克久</u> (2018) 「林業労働者の動向と『緑の雇用』」『柚道 (林経協季報)』No.51 : pp.7-10 6. <u>興梶克久</u> (2018) 「転換期の森林保険」『山林』No.1613 : pp.18-26 7. <u>興梶克久</u> (2017) 「関東地区における原木の安定供給」『木材情報』No.313 : pp.1-5 8. <u>興梶克久</u> (2017) 「川上から川下へ: 木材産地における構造変化」『日事連』No.55(4) : pp.4-9 9. <u>興梶克久</u> (2016) 「『緑の雇用』による林業新規就業者の育成」『農業と経済』No.82(12) : pp.46-53 10. <u>興梶克久</u> (2016) 「林業担い手像の再構成」志賀和人編著『森林管理制度論』日本林業調査会, pp.151-186 <p>(参画者)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高橋涉・<u>興梶克久</u> (2020) 「自伐型林業への新規参入の現状と課題: 文献レビューを中心に」『林業経済学会2020年秋季大会学術講演集』: pp.36-39
<p>備考</p>	<p>参画者 (大学院生): 山岳科学学位プログラム2年 高橋 涉 (修士論文研究での調査研究を含む)</p>